

第 7 回

第 9 期印西市高齢者福祉計画及び 介護保険事業計画策定委員会 会議録（要旨）

令和 6 年 2 月 22 日

第 9 期印西市高齢者福祉計画及び
介護保険事業計画策定委員会
会議録(要旨)

会議体の名称	第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会	
事務局	印西市高齢者福祉課	
開催日時	令和6年2月22日（木）午後14時00分～午後15時30分	
開催場所	印西市役所本庁舎別館 農業委員会会議室	
議題	1. 開会 2. 議題 (1) 第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画素案について (2) その他 3. その他 4. 閉会	
出席者	委員	川久保平一、宮崎康子、永代成日出、中島信行、松信精一◎、羽多野陽子、近藤幸一郎、大内美弥子、蓮實篤裕 欠席 加藤友輔○、柴田勇介、永田庄吾 ◎委員長 ○副委員長
	事務局	澤田課長、山田課長補佐、櫻井、小塚、鈴木、佐藤 （委託業者 株式会社ぎょうせい 主任研究員小林）

旁聽人 1 名

配付資料	● 資料 会議次第 ● 資料１ 第９期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画素案 ● 資料２ 第９期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画パブリックコメントの結果 ● 当日配付
------	---

【会議録】※氏名記載省略

1. 開会

(委員出席等について確認)

2. 議題

(1) 第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画素案について
資料1に沿って、概略を説明。

- 委員 資料1の34頁、第8期にあった「施策の方向3－6 保健福祉事業の実施」について教えてください。
- 事務局 保健福祉事業では、給付事業、紙おむつ給付事業を実施しています。各事業は第9期でも継続して実施しますが、第9期では保健福祉事業の位置づけを、施策の方向から通常の事業に集約をさせていただきました。
- 委員 資料1の38頁、「いんざい健康ちょきん運動」の今後の方向性では、高齢者人口の1割が参加することを目標としているが、令和8年度の計画では、2,100人の参加となっています。その点について、どのように考えているのか教えてください。
資料1の52頁、「就労機会の提供」の計画の会員数は、100名弱しか増えていない点、目標値が低いのではないかという点について教えてください。
- 事務局 「いんざい健康ちょきん運動」については、成し遂げられる目標設定と考えており、向こう3年だけでなく、その先を見据えた継続的な目標として考えています。前回の会議での説明と重複してしまい申し訳ありませんが、「いんざい健康ちょきん運動」については、住民が自主的に活動することが前提です。現状は、コロナの影響により参加者が減少しています。また、参加者の年齢層を見ると後期高齢者の割合が高いため、若い方が参加するサイクルを形成するには、時間を要すると考えています。現在、自治会や高齢者のグループも、運営を継続していくことが非常に難しい時代になっています。このような状況の中で、1,600人台で推移している参加者が、直近では1,500人に減少している現状や、住民の方々の意思を尊重すると、高齢者人口の1割である2,600人の参加は、3年間の取組で到達する目標としては難しいと考えています。
- 事務局 「就労機会の提供」については、シルバー人材センターに委託をして実施しているのですが、シルバー人材センターの運営能力、マネジメント能力を考慮すると、会員数としての増加は100名が限界と聞いています。
会員数が急激に増加した場合、会員に対する就労先の斡旋とのバランスもあるということです。
- 委員 印西市の広報紙に、よくシルバー人材センターの講習が掲載されているが、募集人数が数名～10人程度と非常に少ない。講習の講師やスタッフの数をもう少し増やしていかないと、シルバー人材センターの会員数の増加は難しいだろうなと思いました。

- 事務局 委員からお話いただいた講習は、おそらく高齢者就労支援センター講座かと思いますが、シルバー人材センターと高齢者就労支援センターは、建物は一緒になりましたが、運営は基本的に別々に行っています。
今まで開催できなかった講座は、今年度が初年度のため、ここまで反響が大きいことは想定できませんでした。現在実施している講座については、毎回、参加者が満員という状況が続いています。
- 委 員 健康づくりについては、自分でスポーツジムなどに通う方が多いと感じています。38頁の「いんざい健康ちょきん運動」は、目標が2,000人ほどですが、さらに多くの参加者を見込めるようにも思います。
- 事務局 「いんざい健康ちょきん運動」に関するアンケートでは、3割が参加したい、6割弱が参加したくないという結果でした。参加したくない理由としては、半数が自分で運動しているから、その他、人の集まりが苦手だからなどが続いています。「いんざい健康ちょきん運動」に参加していない方であっても、委員がおっしゃるように、多数の方は自主的に運動しているのだろうと推察しています。健康づくりという観点では、自分でスポーツジム等に通うことと、「いんざい健康ちょきん運動」は、相互に補完する形で効果を生んでいると思っています。
- 委 員 参考にですが、私の自治会には、後期高齢者の方も含めて10名位で構成されている「いんざい健康ちょきん運動」が、2か所あります。スポーツセンターまでは行けない近隣の80歳代の方が、歩いて行ける距離のため参加できています。スポーツセンター等には、60歳代～70歳代の健康な方や車や自転車で行ける方が通ったり、サークルに参加したりしていると思います。
- 事務局 「いんざい健康ちょきん運動」の参加は、強制ではなく、自分たちが今後の生活をどうしていきたいかの選択肢の一つです。スポーツセンター等は個人で参加できるため、集団が苦手という理由で、利用している方もいます。一方で歩いて行ける場所で、地域の方々と一緒に活動に取り組むということは、市の特色として実施していきますが、時間をかけていかなければならないと考えています。個々の多様性を尊重しながら、地域づくりや人との繋がりのお機会を設けることで、助け合いなどが生まれると考えています。コロナ渦では、お互いの声掛けやグループの中で、日常生活を助け合ったりしていたと聞いています。
- 委 員 「いんざい健康ちょきん運動」は、どんな場所で行われているのでしょうか。
- 事務局 基本は、参加者が歩いて行ける場所で行われています。地区の自治会の場所やマンションの集会場などです。公共施設で行っているグループもあり、そこには、自分の地域では「いんざい健康ちょきん運動」実施していない方が参加しています。他には、サークル活動の後に実施することもあります。

○委員 先ほどの繰り返しになってしまうかもしれませんが、第8期の施策の方向3－6で実施されていた保健福祉事業については、紙おむつ給付事業がその対象でした。第9期では、保健福祉事業の記述はなくなり、紙おむつ給付事業の実施のみに集約されたと理解してよろしいでしょうか。
また、実績数値が前回計画と同じため、数値が誤っていると思います。

○事務局 紙おむつ給付事業自体は継続するのですが、保健福祉事業では実施せず、市の事業として実施することに変更したので、保健福祉事業の表記は削除しております。実績数値については、再度記述の追加補正を行いたいと思います。

○委員 資料1の70頁、「(4)小規模多機能型居宅介護」の計画値について、令和6年は28人、令和8年は53人と約2倍の数値について教えてください。
また、24頁の介護給付費の総計、81頁表の(2)と(3)の小計について、教えてください。

○事務局 ご指摘いただいた箇所については、推計や内容を精査しているものを含んでいます。年度途中ということもあり、今後、修正や補正を加えて、最新の令和5年度の数値を入れていきたいと考えております。
70頁の小規模多機能については、当初、第9期計画では見込んでいなかったのですが、今後、ほかのサービスと組み合わせて利用されることを見越して、新規整備を見込むことに方向性を変更しました。こちらについても、修正を行っていきます。

(2) その他

パブリックコメントについては、7件、意見としてありましたが、計画書に反映するものはなかったもので、計画書の修正等はいりません。

3. その他

第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会は、本日をもって終了となります。皆様方にはこの1年間、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今回の計画策定に際していただいたご意見は、地域の計画・発展へとつなげていきたいと思っています。

4. 閉会

以上

第9期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会第7回会議の議事録は、
事実と相違ないことを承認する。

議事録署名人 蓮實 篤祐

議事録署名人 大内 美弥子